

# 平成元年度 和歌山県文化功労賞

こ じま よし かず  
児 嶋 義 一

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県有田市

生 年：昭和3年

## ◎業績及び経歴

昭和24年和歌山師範学校研究科美術専攻修了後、県内公立学校で美術教師として、永く教鞭を採られる。昭和26年に新制作協会展に初入選以後、同会を中心に活躍。新制作協会創立会員である、猪熊弦一郎、小磯良平両氏に師事する。昭和42年、同会の最高賞である新制作展新作家賞を受賞、以後45年、50年の2回受賞。昭和54年には、会員に推挙される。

作品は、具象画に属し、新作家賞を受賞した「混成合唱」「歌声」「斉唱」「合唱」のように少年の群像を多く取り上げ、氏の小学校教員の体験のなかでの、少年たちとの交歓の姿を彷彿させるものが多い。

現在は、山や民具の絵に取り組んでいるが、信州の雄大な山をバックに描かれたランプ、こけしなどの静物(民具)には、日本の伝統或いは見る人自身の少年時代を連想させ、郷愁の中にも、西欧リアリズムと日本的清新さを併せ持つ作品である。本年1月には、その中の昨年度新制作展出品作品である「立山(民具の旅)」が、東京都の「松岡美術館」収蔵作品に決まった。

昨年3月に和歌山市立雄湊小学校長を最後に退職された現在も、県美術家協会常任理事、県展審査員として、後進の指導に当たり、本県の美術文化振興に大いに寄与している。